

種子の国際移動がもたらす可能性と課題 ～グローバル化がもたらす恩恵と課題、その最前線～

私たちの食卓に並ぶ野菜や穀物の多くは、遠く離れた国々で育てられた種子から生まれています。種子は、農業の出発点であり、食料安全保障や環境保全にも深く関わる存在です。近年、グローバル化の進展により、種子の国際移動が活発化しています。これは、農業の多様性や技術革新を促す一方で、生態系への影響や病害の拡散など、さまざまな課題もはらんでいます。

種子の国際移動が進む背景には、大きく3つの要因があります。1点目に、品種改良技術の進展です。例えば、乾燥や病害虫に強い品種が開発されることで、異なる気候条件の地域でも安定した収穫が可能になります。2点目に、気候変動への対応です。従来の品種では対応しきれない環境変化に対して、他国で開発された品種を導入することで、農業の持続可能性を高めることができます。3点目に、農業技術の国際展開です。グローバル企業や研究機関が開発した種子が世界各地で利用されることで、農業の生産性や品質が向上

しています。

しかし、種子の国際移動にはメリットだけでなく、重要な課題も存在します。最大の懸念は、病原体に汚染された種子による病害のまん延です。目に見えない病原体（細菌・ウイルス・ウィロイドなど）が含まれる種子が国境を越えることで、新たな病害が発生し、現地の農作物に深刻な被害をもたらす可能性があります。また、外来種による生態系の攪乱や、知的財産権の問題も無視できません。これらのリスクを最小限に抑えるためには、国際的な



検査制度や検疫体制の整備が不可欠です。

現在184の国とEUが加盟しているIPPC（国際植物防疫条約）に基づいて、植物検疫措置に関する国際基準（ISPM）の策定、技術協力の実施、病害虫に関する情報交換等が行われています。特に種子に関しては、ISTA（国際種子検査協会）や、ISF（国際種子連盟）の傘下である国際健全種子推進機構（ISHI）などの試験法に基づき、各国で種子の輸出入に際して厳格な検査が行われています。ISTAやISHIは、種子の品質と安全性を確保するための検査手法の策定や普及を通じて、国際流通の信頼性を高めています。

こうした流れの中で、私たちのような検査機関が果たす役割はますます重要になっています。種子病害菌検査は、国際的な種子流通の安全性を担保するための第一歩です。目に見えないリスクを見える化し、農業現場に安心を届ける――それが私たちの使命です。今後も、技術の向上と制度の整備を通じて、持続可能な農業の実現に貢献していきたいと考えています。



測ってみよう! 探検隊 Vol.89

AIは議事録係になれるのか? ～10種のAI議事録を比較してみた!～

会議後に「誰が議事録作る?」という空気、経験ありますよね。そんなとき注目されるのが、音声で自動で文字起こしし、要約や整理までしてくれる「AI議事録」ツールです。今回は、nottaやPLAUDnoteといった音声文字起こしツールと、ChatGPTやClaudeといった生成AIを活用し、議事録のフォーマット有・無で、合計10種類の議事録パターンを徹底比較してみました!

評価は以下の5項目【正確性・要約力・構成員力・フォーマット整合性（指定した体裁に合っているか）・実用性（社内での転用・利用しやすいか）】の視点でAIによって点数化してみました。

順位	作成方法	点数	コメント	実用性
1位	ChatGPT (notta 音声+フォーマットあり)	88.2点	読みやすく構成明確。高精度。	◎
2位	Claude (notta 音声+フォーマットあり)	87.0点	全体的に安定し再利用性も高い。	
3位	ChatGPT (PLAUDnote 音声+フォーマットあり)	86.3点	一部曖昧な語尾もあるも優秀。	
4位	Claude (PLAUDnote 音声+フォーマットあり)	85.9点	冗長さを除けば精度は高い。	
5位	ChatGPT (notta 音声+フォーマットなし)	61.0点	抜け漏れあり。構成や体裁も弱い。	

AI議事録は便利な反面、『構成のわかりやすさ』や『会議の空気感』といった要素は人間にしかできない部分もあります。AIは下書きや整理の補助として活用し、最終確認は人が行う。これが現時点での最適解といえるでしょう。皆さんも様々な方法を試してみたいかがでしょうか。

東海テクノからのお知らせ

令和7年度 化学物質管理セミナー開催

「法改正で何が変わる? 令和の化学物質管理と作業環境の最前線」と題し、改正法の要点と実務への影響を整理しながら、現場で求められる化学物質管理のあり方について、具体的な事例を交えてわかりやすく解説します。理解が深まれば、現場担当者様のご負担も少しは軽減すると考えますので、この機会をぜひご活用下さいませ。

開催日時／2025年
9月26日(金)
13:30～16:45
(受付13:00～)

会場／四日市商工会議所 会議所ホール
参加費／無料

詳細は東海テクノホームページをご確認ください。
<https://www.tokai-techno.co.jp/topics/seminar-info/11742/>



申し込みURL



社員プチコラム

宝亀 稜 (環境事業部 松阪分析センター 松阪調査Gr)

連日酷暑が続いておりますが、砂浜での釣りにおいては最高の時期となるため、暑いなかいそいそと海に出向いております。松阪に引っ越してから1年が経ちますが、写真にあるマゴチやキス、青物などを狙いつつ、釣り場の開拓もしております。先日、朝早くからキスを狙っておりましたら、なんと57匹の釣果を出すことができました。すべて家に持ち帰ったのですが、捌き終わるのに2時間も掛かってしまいました。捌いた魚はおすそ分けして、皆さん喜んでくださったのでよかったです。



編集後記

今月のニュースレターでは、国境を越える種子の物語や、AIによる議事録づくり、そして現場で進む化学物質管理の変化など、さまざまな「時代の移り変わり」に触れました。技術や制度が進化する一方で、人の経験や心配りが必要な場面もたくさんあります。便利さと安心を上手に組み合わせながら、一歩ずつ未来へ進んでいく――そんな姿勢で業務を進めていきたいと思います。(みっちー)

